

### ◆地区通研より

#### ○東北・北海道地区

期日：平成29年10月26日(木)・27日(金)

会場：大手門パルズ（山形県山形市）

協議テーマ：各校における放送視聴利用の現状と課題および今後の予定について

東北・北海道地区通研では、事前に各校から提出された放送視聴利用状況や協議事項をまとめた資料をもとに、協議を行った。

放送視聴利用状況の報告では、面接指導を重視しているためほとんど利用していない学校や、今年度から積極的に利用している学校など、同じ地区でも様々であったが、どちらかという活用していない学校が多かった。また活用方法に関しても多岐にわたり、自学の補助やまとめ学習、中にはPC教室での集合授業の中で視聴させ、生徒同士で話し合いをさせたりするなど、一種のコミュニケーションツールとして利用している報告もあった。

協議では、視聴報告書や各校での視聴報告に関する規定についての話題が取り上げられた。また学習指導要領の改訂に伴うNHK高校講座の対応について質問があり、NHKエデュケーショナルから「【主体的、対話的で深い学び】をどのように考え、高校講座に取り入れているか」「新カリキュラムへの対応」等の話をいただき、今後の取り組み方を考える良い機会となった。

分科会の最後には、NHKエデュケーショナルから高校講座の今後の展開について話をいただいた。分科会参加校の中には放送教育を導入したいが、活用方法がわからないという学校もいくつかあり、非常に参考になるものであった。

二日目の全体会の中で、分科会司会者である秋田県立秋田明徳館高等学校教頭の金先生から「他校の良いところに学ぶとともに、自校の取り組みを振り返り今後に活かす良い機会になった。」との言葉があったが、正にその通りであると感じた。今後の放送利用における更なる可能性を感じさせる、有意義な研修会であった。

(文責：放送教育研究委員 桑島 隼)



#### ○関東地区

期日：平成29年9月22日(金)

会場：栃木県立宇都宮高等学校

発表者 ①新潟県立新潟翠江高等学校

教諭：大澤 隆

②東海大学付属望星高等学校

教諭：大嶋 輝也

#### テーマ

##### ①通信制高校における放送教育の効果的な活用に向けた取り組み

##### ～中高連携を視野に入れた実践研究と現在の取り組み状況の紹介～

新潟翠江高校は平成16年に創設された単位制普通科である。最近の傾向として、在籍生徒の減少があるが、単位修得率はおおむね60%となっている。平成21年度から生徒の学習促進のためMYPAGEを立ち上げ、高校講座をリンクさせている。今回の研究テーマの、『たて』と『よこ』の連携については、『たて』は中学生に学校説明会で高校講座ベーシックを見せ、高校での学習不安を取り除こうという取り組みである。

『よこ』は校内の教科間の連携である。担当教科のレポートに高校講座の視聴を勧めるコメントを入れたところ、とても好評で視聴する生徒が増えた。これらのことを踏まえて27年度から「放送教育研究ワーキンググループ」を発足させ研究を続けている。質疑応答では、PRの仕方や課題と高校講座の日程が合わない件、MYPAGEの費用の件などがなされた。

## ②本校学習システムについて

### ～広域通信制高等学校の質の確保・向上に関する調査研究者会議から～

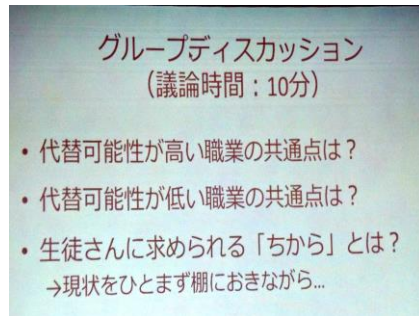
望星高校は昭和 34 年から通信教育を始めた先駆けの学校である。そのため、独自の放送コンテンツや設備を持ち、1 講座 30 分、2 講座でレポート 1 通が完成する。講座は教員が作成し、校内の専用スタジオで収録する。通信制であること以外は他の付属校と同じであるため、留学やヨーロッパ研修にも参加が可能である。質疑応答は独自の放送講座と面接指導の関係、30 分のコンテンツ作成の原稿量などであった。

### 講評及び講演 早稲田大学人間科学学術院 長濱 澄先生

午後の部は、早稲田大学人間科学学術院助手、長濱澄先生にリーダーシップをとっていただき、グループ討議を中心とする内容で実施された。まず、参加者の自己紹介から始まり、AI の普及により代替される可能性の高い職業と低い職業のリストが配られ、その理由を考える討議が行われた。次に、なぜ高校教師はリストにないのかについて分析された。これからの高校は「持続的イノベーション（単発な変化）」ではだめなのだということであった。現在 MooCs（大規模公開オンライン講座）が世界 2000 万人の人に視聴されている。この MooCs のオープン教材をどのように使いこなすかが高校教師の生き残る方法である、という

内容であった。

(文責：放送教育研究委員 太田 恭子)



## ○中部地区

期日 平成 29 年 9 月 14 日 (木) 15 日 (金)

場所 静岡県男女共同参画センター あざれあ (静岡県静岡市)

1、発表者：愛知県立刈谷東高等学校

テーマ：「本校における放送教育の現状と課題」

2、発表者：三重県立松坂高等学校

テーマ：「学習支援におけるNHK高校講座の活用」

研究協議会は、各高等学校の放送教育への取り組みと放送教育を推進する上での各学校が抱える悩み、NHK 高校講座を利用する生徒を増やすための方策などが話し合われ、活発な意見交換が行われました。

「本校における放送教育の現状と課題」については、「一方向的な遠隔教育としかかなりえないこと」「放送教育の必要性に対する理解が高くないこと」などが挙げられました。しかし自宅で教育を受けられる体制は、就業している生徒や不登校の生徒にとって大きな助けとなるため、教員の理解向上が求められる。と課題が挙げられた。

「学習支援におけるNHK高校講座の活用」についての教員アンケートでは、自学自習を助ける有力な存在ではあるが、レポートと放送内容とのリンクについては、教科によっては慎重な意見が多く見られるとの報告がありました。

「毎回スクーリングでNHK 高校講座を視聴させることについて・数学」は当初 20 分間じっくり見るか不安であったが、全員が静かに視聴し、残り 30 分間でコンパクトにまとめたレポート解説にも満足していた。意見を聞いたところ少数ではあるが、「わかりやすい、自宅でもよく観る。」と帰ってきた。

### 3、記念講演「子どもたちの自覚と自律を育てる情報モラル教育」

講師：静岡大学教育学部 准教授 塩田 真吾氏

参加者全員でソーシャル・ネット・スキル・トレーニング (SNST) に参加し、人によって感じ方が異なることを実感した。指導のポイント・情報モラル教育として大切なのは、トラブル事例の提示だけでなく、問題を「自分のこと」として自覚させ、安易な結論を与えず、どのように対応すればよいかを様々な状況で考え続けさせること。さらにあやしいサイト・あやしいアプリに「このぐらい大丈夫」はない。ということで大変ためになる研修講演でした。(文責：放送教育研究委員 高橋由美子)

## ○近畿地区

期日 平成 29 年 9 月 22 日 (金)

会場 大阪私学会館 (大阪府大阪市)

発表者：滋賀県綾羽高等学校 常勤講師：小巻 一步

テーマ：「スクーリング参加を見据えた放送教育指導の工夫」～視聴等報告の分析を通して～

【研究発表】通信教育の基幹は添削指導と面接指導である。高等学校卒業を、自律した進路選択と社会生活への過程と位置づけ、その意識の醸成に向けて、面接指導を有効に活用する指導方針に基づき、放送の利用について研究、検証を進めた。基本的考え方は、面接指導への参加を目標とした放送教育の実践である。

放送教育の利点は、画像や動画を使った説明により、内容や現象の理解がしやすいという点にある。また、理解しにくかった部分がある場合、繰り返しの反復学習が容易であることもあげられる。一方、欠点として、指導の一方通行、生じた疑問や課題への対応の困難性、学習の質がバラバラになるなどがあげられる。発表においては、これらの点が整理された。

学習指導について求められるものは、自ら知識を修得し、その応用を実習し、学習の意義、目的を十分に実感した上での学習内容の定着であると示された。その上で、放送教育を活用した学習は「反転授業」のスタイルと類似しており、その効果を十分に期待できるとしている。さらに、放送教育をきっかけとした応用学習の展開が、学力の向上とそれによる自尊感情の醸成につながり、面接指導出席へのより積極的な態度、姿勢を作りだすとし、新たな放送教育の意義についての示唆があった。

また、放送教育そのものの有効性を高めるために、放送視聴前の指導、放送視聴後の指導に加え、放送視聴報告へも工夫を凝らし、学習の成果を得る工夫を試みている。例えば、放送報告については、過去の報告書の分析から放送学習の特徴や問題点、生徒が感じていることなどを客観的に押さえ、より効果的な報告書テンプレートを作成。学力によりテンプレートを変えたり、内容を整理させる仕組み、自由にまとめさせる仕組みなど、生徒の実態、コンテンツの内容によって異なるテンプレートを提供し、学力の向上、学習習慣の定着などに向けた取り組みが紹介された。

放送教育に限らず、面接指導、添削指導等のすべてにわたり、卒業後を見据えた学習指導の理念的な部分を多く含む発表で、出席者一同、今後の通信教育のあり方について考える良い機会となった。

研究発表の後、助言者を含む部会出席者全体での研究協議が熱心に行われた。

(文責：eラーニング研究委員会 委員長 平田裕)

## ○四国地区

期日：平成 29 年 7 月 6 日 (木)・7 日 (金)

会場：にぎたつ会館 (愛媛県松山市)

(1) 研究発表 発表者：未来高等学校 教諭 佐藤 卓也

テーマ：「未来高校の放送教育における取り組みについて」

(2) 研究協議および情報交換

(1) 未来高等学校は、平成 28 年から放送教育研究委嘱校となっており、来年度に全通研愛媛大会で研究発表をおこなう。今回の発表は、生徒への視聴メディア環境や高校講座の認知度に関する調査、教職員に対してはスクーリングでの高校講座の利用状況調査や放送視聴票利用上の問題点などを集計・分析をしており、高校講座の効果的利用法の模索が行われている様子が伝わってきた。課題として、①生徒が自主的に利用して学習するレベルには達していない。②出席代替として認めている視聴票の作成が内容的に不十分な生徒が多い。という 2 点をあげ、「学校全体として高校講座の活用に取り組み、生徒が自主的に活用するようにさらに研究を行う」ことを目標に掲げた。

①の課題を解決するための実践として、各教科 (国語・地歴公民・英語・情報) で高校講座をスクーリングの中で利用している状況を学習指導案と実施後の評価・生徒の反応・次回への改善点などの項目でまとめている。高校講座の利用実践が他の先生方も共有できるものになっている点に、これからの有効的活用の可能性を感じた。

②の課題を解決するための実践として、「学校生活のしおり」に各教科ごとにていねいに段階を踏んで視聴票の書き方を説明している。ネットを利用した高校講座の視聴票の書き方も、ホームページで段階を踏みながら説明している。

昨年からの取組に改善点を探り、今年の実践に結びつけている様子うかがえる研究発表であり、来年の全通研での発表が楽しみである。

(2) 発表後、「高校講座の視聴促進の取り組み及び有効な活用方法について」「視聴後の確認と評価について」などの項目について各校の取り組みが紹介された。また、「タブレットを利用したスクーリングの実施状況」や「デジタル教科書の導入検討校があるか」等の情報交換が行われた。特に「放送視聴の確認と評価について」は、本人が確実に視聴を行ったかの確認に関して、各校とも苦勞・工夫しながら指導をしている様子うかがえた。

(文責：放送教育研究委員 吉田 健)



道後温泉本館

## ○九州地区

日時：平成 29 年 11 月 16 日(木)・17 日(金) 会場：くまもと県民交流館パレア（熊本県熊本市）  
発表者：鹿児島県立開陽高等学校 講師：山下 照哉  
テーマ：「一人ひとりを大切に学習支援をめざして」

発表校の現状は、2年間受講登録をせず除籍になる生徒は約 11%、学習活動を休止している生徒は約 15%となっている。その背景として、①約 600 名（在籍生徒の 44%）の生徒が学ぶ協力校との連携、②生徒の学力差、③学期末の出席代替手段としてだけNHK高校講座を活用している生徒の存在、という 3 点の課題がある。対策として「一人ひとりを大切に学習支援」を工夫することが重要であり、その一助としてNHK放送教育の視聴を位置づけ、研究を行った。研究における取組として、①テレビ会議システムを活用した協力校との連携、②学習補助資料のHP掲載による生徒の自主学習支援、③スクーリング活用を通じたNHK高校講座の生徒周知の実践が報告された。技術的・環境的な課題に立ち向かうとともに教員間の協力体制を構築し、生徒とのかかわりを大切にして生徒の社会的・職業的自立を支援する環境づくりを目指す具体的取り組みが他校の参考となった。

夜の教育懇談会では「九州は一つ」の言葉が随所に聞かれ、学校の垣根を越えた活発な交流が行われた。最終日の研究協議では、各校からの質問に対する事前回答をまとめた『分科会照会事項回答』をもとに、NHK高校講座の活用状況や各校の抱える課題について、情報交換を行い、有意義な時間を共有することができた。

(文責：放送教育研究委員 山口瞳)



修復中の熊本城



各校厳選の銘酒